

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26315] IgGサブクラスIgG2

受託開始日

- 平成27年3月3日(火)



IgGサブクラスIgG2

免疫グロブリンIgGは分子量約14万6000の糖タンパクでB細胞により産生され、IgG、IgA、IgM、IgD、IgEの5種類の免疫グロブリンのうち最も多量に存在し、全免疫グロブリンの2/3以上を占めます。IgGは液性免疫としてヒトを感染症から防御する重要な役割を持っています。

IgGはさらに免疫グロブリン分子のヒンジ領域とH鎖（Heavy chain）間のS-S結合のタイプによりサブクラスIgG1～4に分類されます。IgGは免疫グロブリンの中で唯一胎盤透過性を持ち胎児に移行するため、乳児は母乳に含まれるIgG抗体とともに数か月間母体由来の抗体により感染症から保護されます。

「IgGサブクラス欠損症」はサブクラス1～4のうち1つ又は複数の成分が欠乏していることを意味し、原発性免疫不全症のカテゴリーの中で体液性免疫不全症として位置付けられています。

IgGの中で、IgG2はIgG1と共に特異抗体活性を持ち、細菌の多糖体抗原、特に肺炎球菌やインフルエンザ菌の感染防御において中心的な役割を担っています。IgG2欠損症は反復性の中耳炎や気管支炎及び肺炎などの感染症を引き起こすことが知られていますが、易感染性を示さない症例も存在します。一般にIgG2の血中濃度は、年齢にもよりますが30mg/dL以下を欠乏症とし、30～80mg/dLを要観察域とされています。

2015年2月に日本血液製剤機構の免疫グロブリン製剤「献血ヴェノグロブリン® IH5%静注」の効能・効果として「血清IgG2値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制（ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限る）」が追加されました。効能・効果に関する使用上の注意の一つに「血清IgG2値80mg/dL未満が継続していること。」と記載されており、同製剤の投与には予め血清中のIgGサブクラスIgG2検査により、血清IgG2値が80mg/dL未満であることを確認することが求められます。

総IgGは基準値幅が広く、仮にIgG2の欠乏があるとしても総IgG濃度が低くなるとは限らず、総濃度に反映されない場合も多く認められます。

IgGサブクラスIgG2検査はIgG2欠乏症の診断、および免疫グロブリン製剤の投与時に必要な検査です。

検査要項

項目コード	26315
検査項目名	IgGサブクラスIgG2
検体量 / 保存方法	血清 0.4mL / 冷蔵
検査方法	ネフェロメトリー法
基準値	208～754 mg/dL (免疫グロブリン補充療法における適応基準：80mg/dL未満)
所要日数	3～5日
検査実施料	388点 ([D014] 自己抗体検査 [29] IgG ₂)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	* 原発性免疫不全等を疑う場合に算定できます。算定に当たっては、その理由および医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

参考文献

近藤 直実, 他: 呼吸 33: 486-494, 2014.